

平成 19 年度

河川名	地点	水素イオン濃度 PH		生物化学的酸素要求量 BOD		浮遊物質量 SS		溶存酸素量 DO					
		月	年平均	月	年平均	月	年平均	月	年平均				
神田川	久保前橋	5	7.9	7.8	5	2.7	1.5	5	4	8	5	9.0	10.7
		9	7.8		9	1.2		9	3		9	10.4	
		11	7.9		11	0.5		11	9		11	11.0	
		2	7.7		2	1.4		2	17		2	12.7	
	高戸橋	5	6.8	7.2	5	1.8	1.7	5	1	2	5	7.8	8.8
		9	7.7		9	1.1		9	1		9	9.1	
		11	7.3		11	0.8		11	1		11	9.4	
		2	7.1		2	2.9		2	4		2	9.1	
妙正寺川	四村橋	5	7.6	7.4	5	1.9	1.9	5	2	3	5	10.1	10.9
		9	7.8		9	1.7		9	5		9	11.8	
		11	7.4		11	1.3		11	2		11	10.8	
		2	6.8		2	2.5		2	3		2	11.0	

## 各項目の解説

### 水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5 ~ 8.5 (C類型)

### 生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 5 mg / l以下 (C類型)

### 浮遊物質量 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 50 mg / l 以下

### 溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5 mg / l以上 (C類型)